



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

公立大学法人 山口県立大学 大学院
国際文化学研究科国際文化学専攻
修士課程

Graduate School of Intercultural Studies
Master's Course of Intercultural Studies

阿部 真育 ABE Maiku

研究分野：土木計画学、獣疫疫学

キーワード：データサイエンス、リスクマネジメント、合意形成



研究トピックス：

大規模災害の事前対策に関する地域住民との合意形成手法の構築

研究の要旨：

昨今、様々な自然災害が日本のみならず世界中で発生しています。災害が多発する国では、国が災害対策基本方針を立て、それを基に地域では各地域の状況に基づいた災害対策基本計画を立てていることが多いです。

例えば、感染症災害等への対応として、WHO の資金援助の下、多くの発展途上国においては、対策方針や対策計画に基づいて感染症拡大予測システムなどを構築しており、国と地域間の医療情報ネットワークの構築と災害対策の効率化を行ってまいります。

災害多発国の1つである日本でも、各地域に寄り添った計画が立てられています。日本における災害時の基本的な援助の在り方としては、下の三つが良く挙げられています。

- **自助**：自身の身は自身で守る
- **共助**：公的な機関と住民が協力して、自身も含めた被災者等の援助を行う
- **公助**：公的な支援により被災者等の援助を行う

ただ、大規模災害時に、全ての住民に対して公的な救助や支援を提供するのは、人的にも経済的にも困難であり、特にこれまで経験のない災害に見舞われた際には、公助の適用も遅れる可能性を有し、共助も困難な場合も存在します。そのため、**災害直後の対応や、迅速な地域振興には、自助の力が大きな起爆剤となると**言えます。

しかしながら、最近の研究において、災害時の避難行動は、自身の経験に基づいて判断されることが多く、日頃の災害教育等を通して得られた知識は軽視されがちであると報告されており、災害多発国であればあるほど、避難等が遅れて被害が拡大するケースも多くなってきています。

大学院では、様々な災害を対象に、**地域住民の災害に対する意識の高さを、如何にして維持できるかに**ついて、**取得可能なデータを用いた様々なアプローチで皆さんと一緒に考えていきたい**と思っています。

主な関連業績：

1. Maiku ABE, Yusuke KOBAYASHI, Satoshi SEKIGUCHI; Trial of information visualization methods for determining the priority order of support for disaster recovery from infectious diseases, The 9th SaSSOH (Sapporo Summer Symposium for One Health) , 2021
2. Maiku ABE; Risk-Sharing Model Of Foot-and-Mouth Disease Outbreak In Japan, 2019 IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2019)

[教員紹介へのリンク](#)

[教員データベースへのリンク](#)



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University